

発行 高崎市医療介護連携相談センターたかまつ
〒370-0829 群馬県高崎市高松町 5-28
高崎市総合保健センター 3F
TEL : 027-329-6611 FAX : 027-329-6612

編集 竹田幸彦、中島 透、長坂資夫、森 弘文、坂本道子、
柿沼臣一、桐生郁生、小川展二、平 洋、森田廣樹、
乾 恵輔、眞下正道、櫻井繁樹、佐藤泰然
(地域包括ケアシステム委員会)

CONTENT

- 高崎市在宅医会会長就任のご挨拶 森田 廣樹 ①
- あるひとりごと 堀越 健 ②
- 在宅医療Q&A 山田 裕子 ②
- おしえて、在宅療養の実際 山田 千恵 ③
- 「相談センターたかまつ」の活動報告 ④

高崎市在宅医会会長就任のご挨拶

高崎市在宅医会 会長 森 田 廣 樹

このたび、高崎市医師会在宅医会の会長を拝命いたしました。微力ではございますが、地域の在宅医療のさらなる発展に向けて尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

在宅医療は単に病気を診るだけではなく、その人らしい生活や人生を支える重要な役割を担っております。患者さんやご家族の多様なニーズに応えるためには、多くの人的・物的資源が必要となります。しかしながら、在宅医療に携わる医療介護関係者を取り巻く環境は決して容易ではなく、これまで以上に地域全体で、多職種が支え合う体制づくりが求められています。

私は、在宅医会の役割の一つとして、「かかりつけ医が安心して在宅医療に取り組める環境づくり」を大切にしたいと考えています。患者さんやご家族が望むのであれば、かかりつけの先生が、住み慣れた場所で最期まで診療を継続できることが理想であると考えております。しかしながら、24時間対応への負担や急変時の対応、複雑な診療報酬体系、在宅看取りへの不安などから、実現が難しい場面も少なくありません。在宅医会としては、そのような先生方が安心して在宅医療に関わることができるよう、さまざまな支援を行っていきたいと考えています。また、在宅医療は医師だけで完結するものではありません。多くの職種がそれぞれの専門性を発揮しながら協力することで成り立っています。そのため、多職種間の連携をより円滑にし、互いの立場や専門性を理解し、お互いを尊重しつつ協力しあえる

関係づくりも大切だと思います。一つの職種に負担が集中して疲弊するのではなく、多職種で支え合う仕組みを構築することが、結果として患者さんやご家族の安心につながるものと考えています。

在宅医療に関わる医療介護者の考え方や診療・支援のスタイルはさまざまです。患者さんの価値観や人生観もまた、一人ひとり異なります。だからこそ私たちは、特定の考え方にとらわれることなく、多様な価値観を尊重しながら、患者さんやご家族にとって何が最善なのかを常に考え続けなければなりません。目指すべきものは、医療者側の満足ではなく、患者さんやご家族が「この地域で療養してよかった」と感じられる在宅医療です。

高崎市の在宅医療が、患者さん、ご家族、そして医療介護に携わるすべての方々にとって、より良いものとなるよう、皆様と力を合わせて取り組んでまいります。今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



(撮影者) 富澤 滋 「彼岸花の群生(埼玉県小川町)」

在宅医療は、一人ではとても成り立ちません。訪問先で「あれ、これはどうしたらいいのだろう」と迷うたび、ケアマネジャーさんや訪問看護師さん、施設の相談員さん、病院の連携室の皆さんにも、あちこち電話をかけています。

高崎で訪問診療を始めて3年ほど経ちますが、こちらの多職種の皆さんの気さくで温かい対応に、いつも助けられています。前職では、なかなか一筋縄ではいかない方とのやり取りに苦労した経験もあり(苦笑)、それだけに高崎の風通しの良さを日々ありがたく感じています。

医師は診断や治療については語れても、介護や福祉の仕組みとなると、実はよく分かっていないことが少なくありません。それでも「先生、それは

ですね」と教えてくださる皆さんのおかげで、なんとか一人前の在宅医の顔をしていられます。

知ったかぶりをせず、素直に「教えてください」と言えることも、連携の大切な一歩だと日々教わっています。精進いたします…。



在宅医療 Q&A 第32回

回答者 ころとからだのクリニック 精神保健福祉士 山田 裕子

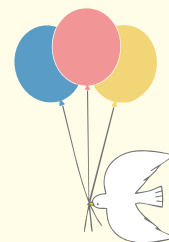
Q 精神科訪問診療を利用したい場合、どこに相談したらいいですか？
また、費用について心配なのですが、使える制度はありますか？

A ケアマネジャーや相談支援専門員、訪問看護師など、身近な支援者がいる場合は、その方に相談してみてください。もしない場合は、市役所、医師会などに問い合わせると、地域の精神科訪問診療を行っている医療機関を教えてください。医療機関では、本人や家族、支援者、行政など様々な立場の方からの相談に対応していることが多いです。

費用については、自立支援医療の対象となる場合があります。自立支援医療とは、継続的な精神科の治療が必要な方を対象に、医療費の自己負担額が一割になる制度です。訪問看護ステーションや薬

局も指定することで、自己負担額を軽減できます。また、世帯の所得などに応じて自己負担額に月ごとの上限額が設定されており、医療費（訪問看護や薬代などを含む）が上限額を超えた場合、それ以上の自己負担はなく治療を続けることができます。自立支援医療の利用には、住所地の市区町村役場の障害福祉担当課での申請が必要です。

費用や利用できる制度についての詳細は、精神科訪問診療を希望される際に、医療機関や市区町村の担当窓口へご相談ください。



在宅医療について皆様からのご質問を募集いたします

ご質問は、相談センターたかまつ(FAX: 027-329-6612)または、高崎市医師会(FAX: 027-323-2551)へお寄せください。



開設9年目を迎えて 地域と共に歩み、 住み慣れた八幡で最期まで暮らすために

医療法人社団 三思医光会 高齢者あんしんセンター八幡

山田 千恵

「高齢者あんしんセンター八幡」は、地域の皆様に支えられ、今年で開設から9年目を迎えました。近年、当センターへの相談受付件数は年々増加しています。内容は介護相談や介護保険、認知症に関するものが中心です。本人や家族からの相談だけでなく、民生委員や医療機関、近隣住民の方々からの相談も一定数寄せられています。高齢者以外の方についての相談をお受けすることもあります。その際は適切な機関等へ繋いでいます。地域の皆様に「何かあれば、とりあえずあんしんセンターに聞いてみよう」と思ってもらえることは非常にありがたいことです。

私たちは、地域の皆様と共に活動していますが、地域ことは住民の皆様に直接聞いて教えてもらうのが一番早い！と日々実感しており、八幡は日頃からの「地域の見守り」がしっかりと機能している地区だと感じています。また、地域には、いきいきサロン等での講話や、定期的にアウトリーチ訪問を実施している先生や薬剤師の方もいらっしゃり、日頃から医療機関や薬局が地域の方との繋がりを大切にされています。当センターとしても、こまめに情報共有や情報提供を行うなどの継続により連携を深めてきました。認知症相談も増えていますが、以前、先生から「受診の際は、本人の普段の生活の様子がわかる情報があると、より正確な診断につながる」との助言をいただき、受診に繋ぐ際は単なる症状だけでなく、ご本人の生活状況や背景も含めた丁寧な情報提供を行うよう意識しています。

一方で、認知症に対するマイナスイメージは未だ根強く、他の病気に比べて受診を勧めるハードルが高いのが現状です。しかし、認知症は「早期発見・早期対応」こそが、結果としてご本人が希望する在宅生活の継続を可能にします。だからこそ、認知症への理解をもっと多くの方に深めてもらう必要があると痛感しています。

また、当センターは、地域のケアマネジャーやサービス事業所との連携も欠かせません。私たちが大切にしているのは、地域の社会資源をケアマネジャーやサービス事業所の方にも広く知ってもらい、それらの活用も含めて利用者の「生活全体」を見据えたケアプラン作成、本人支援を推進

することです。高崎市の報告によると、八幡地域は高齢化率が高い一方で、市全体の平均よりも介護保険の認定者数が少ないというデータがあります。これは、介護予防サポーター、オレンジサポーター、地域支え合いサポーターをはじめ、地域での活動意欲が高い方が非常に多いことの表れと考えています。「住み慣れた地域で元気で暮らし続けたい」「地域のためだけでなく、自分の健康のために参加している」という住民の皆様の高い意識が、健康寿命を延ばすことに繋がっているのだと思います。実際、当センターで開催する介護予防教室から発展した住民の自主グループは毎年1箇所ずつ増えており、フレイル予防の大切さが地域に深く浸透しています。ですが、元気な方もいつかは、医療や介護のケアを必要とする時期がやってきます。最近では、医療ケアや介護保険サービスを利用しながら、最期まで自宅で過ごす在宅療養を選択する人も増えています。たとえ極わずかな時間であっても、「最期は自宅で」と希望され、それを叶える方もいらっしゃいます。そのような時には、本人や家族の意向をしっかりと確認し、医療機関やケアマネジャー、介護保険事業所等と共有し、関係者がスムーズに連携を図り本人支援ができるよう調整を行います。

また、当センターでは全戸訪問等により、個別の困りごとの把握や地域の課題把握にも努めています。最近では、個別の支援がきっかけとなり、居場所「オアシス」が誕生しました。本人にとって「過ごしやすい場所」「行きやすい場所」を本人と対話を持ちながら検討し、設置した結果、現在は週に2回ほどふらりと立ち寄ってくれる大切な場となっています。当センター開設時間内は、出入り自由となっています。

また近年は、地域内で運転免許返納後の買い物や通院の困りごとが増えています。これらは住民の皆様と共有し、「地域で解決できる方法は何か」「どこまで地域で担えるか」を話し合っています。私たちはこれからも、地域の皆様の声を原動力に、課題を一つひとつ共有しながら、住み慣れた八幡で暮らし続けたいと思う人がもっとも増える地域を住民の皆様と共に築いていきたいと考えています。

「相談センターたかまつ」の活動報告

R8年度
高崎市
在宅医会
講演会
開催しました

テーマ 「BPSD への対応」

日時 令和8年6月3日(水) 19:30 ~ 21:00
場所 高崎市総合保健センター 3階 第4会議室(ハイブリッド)
講師 ころとからだのクリニック 院長 茂木 智和 先生
「精神科訪問診療とBPSD」

参加者 151名(会場 54名・Web 97名)
在宅医療に関わる、多くの皆様にご参加いただき大盛況に終える事ができました。
茂木先生、参加者の皆さん、ありがとうございました。



茂木 智和 先生

【講義内容】

認知症の「分類や全体像」「BPSDとは何か」「分類に沿った具体的な対応のポイント」「薬物療法における注意点」等についてお話をいただきました。また、「精神科訪問診療の必要性和背景」「臨床事例を通しての課題」「アプローチ方法」「成果」について示され、地域全体で支える体制の重要性について述べられました。

まとめとして、患者さんを適切な医療や社会資源、社会参加へと繋げる架け橋となり、「繋げる」ことを日頃から意識している事をお話されました。「一人でも多くの方が治療に繋がったことで幸せになってくれればと思う。皆さんの協力がなければ、地域にそのような患者さんがいるという事も知る事ができないので、ぜひ情報をいただきながら、これからも頑張っていきたい」と締めくくられました。

その後、会場からの質問に丁寧に答えてくださり、訪問でのリアルな場面が垣間見える返答もあり、ほっこりとした雰囲気につつまれました。



質疑応答の様子

【アンケート内容からの質問⇒茂木先生よりご回答】

●病院やクリニックとは違い「個人宅」という空間は刃物もありますし、何が引き金になって相手が攻撃的になるか分かりません。クレーム対応や自分自身の身を守るために何か心がけている事はありますか？

⇒対応というほどではないですが、初回訪問時は特に、本人が信頼している支援者や家族の方の同席をお願いして、本人の心理的な負担を減らすこと、支援者の方に病状を理解してもらうこと、周りの方との信頼関係を築くことを意識しています。しかし、本人から積極的な治療同意がないこともあり、個人宅という状況では危険を感じるケースはあります。病状の影響で当院での対応が困難になった場合は、家族や支援者にどのような状況であれば警察への通報なのか、などを説明した上で、治療を撤退せざるを得ない状況もありました。無理に自院で抱え込まないことも重要だと感じています。こういったケースでの治療は、医学的に間違っていない範囲で本人の希望に沿い、治療が継続できるように心がけています。

●訪問診療において、茂木先生がこれまでで一番喜びを感じたエピソードがあれば聞きたいです。

⇒訪問診療を始めた頃の、全く医療につながっていなかった高齢独居のうつ病の患者さんです。訪問診療開始時は薬物治療に拒否がありましたが、繰り返し訪問していく中で薬物治療に同意してくれるようになりました。訪問看護さんなどとも連携して、内服も続けることができ、元気になった時は訪問診療をやっていたよかったな、と感じました。過去に入院中の主治医だった患者さんを在宅でフォローすることになった時も嬉しかったですね。

第37回 ケアマネカフェ開催しました

日時 令和8年6月17日(水) 13:30 ~ 15:00
場所 高崎市総合保健センター 3階 第4会議室
テーマ 家族ケアを担う子どもたちの現状と支援
講師 高崎市教育委員会 学校教育課 ヤングケアラー支援担当 黒田 陽子 先生
「高崎市のヤングケアラー SOSについて〜高崎市の子どもは、高崎市で守る〜」

参加者 36名 高齢者あんしんセンター、居宅介護支援事業所、看護小規模多機能型居宅介護、有料老人ホームの皆様、相談センター南大類さんがご参加くださり、ありがとうございました。



黒田 陽子 先生

【講義内容】

ヤングケアラーSOSサービス事業の概要について、3つの事例を通して、具体的な連携方法や「お手伝い」「ヤングケアラー」「児童虐待」の境界線、把握のポイント、ヤングケアラーかもしれないと気付いた時の相談窓口についてお話をいただきました。グループワークでは、活発な意見交換がなされ、黒田先生がその都度質問に答えてくださいました。終わりに、個人のプラン作成やモニタリング、支援終了のタイミングが課題である事に触れられました。

ケースの中で、もしかして……と気付いた時、どこに相談を繋げれば良いかが明確となり、また対面での研修により、行政担当者にアクセスしやすい連携強化の機会とする事ができました。黒田先生、貴重なお話をいただきありがとうございました。

【アンケート内容の一部をご紹介します】

●貴重な講演をありがとうございました。話を聞くほど、より難しく悩みの尽きない内容だと感じました。本人のおかれている状況や家庭環境など相談しにくいこと、たくさんの壁があることを知りました。今後増えていく、より複雑になる事柄だと思うので、私自身も考えながら仕事に活かしていきたいと思っています。

●予防として早目に介入が必要だと感じました。躊躇しないでヤングケアラー支援担当とつながれる様に、研修に参加できて良かったです。

●「迷ったら相談してください。」という言葉が心強いと思いました。

●気軽に質問や意見交換ができる場をありがとうございました。



グループワークでの質疑応答



グループワークの様子

言の葉

イベントごとが多い季節ですが、地震や豪雨災害もあり、いつ何があってもおかしくない……と思うこの頃。平穏な日々をありがたく思い、何を大切にしたいか考えてみたいと思います。皆さんが「大切にしたいこと」は何ですか？

相談センターたかまつ

